

人が集う場所になるために
- 斎藤清美術館によるアートアクティビティの構築 -

会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科 葉山亮三

概要

柳津町営の斎藤清美術館では、地域における芸術文化の発信拠点として美術の楽しさを伝えることをコンセプトの1つとし、ワークショップやアートイベントを実施している。

これまでは主に地域おこし協力隊の活動として拡充してきたが、今後地域おこし協力隊が不在になっても、地域住民や大学等と協力して持続的な取組とする方法を検討する。

目的

斎藤清美術館が地域における芸術文化の発信拠点として、美術の楽しさを伝えるワークショップを継続的に運用できるような体制の配置を目的とする。具体的には以下の3点を目標として、目的の達成を図る。

- ・ 地域における芸術文化の発信拠点として美術の楽しさを伝えるワークショップを実施する
- ・ ワークショップについて、持続的な実践の運営について検討し、継続的な芸術文化の発信拠点となる
- ・ ワークショップ環境の改善を行い、子どもをはじめ来場者が繰り返し来館して制作遊びを楽しめる環境を整える

調査研究方法

現地視察とミーティングを踏まえ、目的を達成するためにいくつかの実践を検討した。第一にこれまでゼミ活動として行ってきた造形ワークショップを斎藤清美術館でも実施することとした。

特に斎藤清氏の作品で使用する版表現を扱うもの、また奥会津の地域文化を体験できるもの、体感できるものを想定している。斎藤清美術館ならではの利を活かすことで、この地ならではの芸術文化の発信ができると考えた。

ワークショップについて、これまで4回のワークショップを計画した。

- ①版表現に合わせて実施したもの（9/29実施）
- ②奥会津の環境に即して実施したもの（12/1実施）
- ③継続的な使用を想定した教具を制作しそれを活用したもの（2/1実施）
- ④③の教具を追加制作してより汎用性を高めるもの（3/23実施）

これらの実践を通して本研究事業の目的の達成を図った。

葉っぱスタンプを
つくろう
～みんなの力で彩
る秋の奥会津～

9/29実施

ワークショップ試作



内容

斎藤清氏の版画作品と奥会津の秋の風景に合わせて紅葉する葉をモチーフにスタンプ制作を行う。

葉の形をスタイロフォームに描き、ヒートカッターでスタンプの外形を整える。油性ペンでスタイロフォームを溶かして葉脈等細部を彫り、スタンプを作成する。

出来上がったスタンプで好きな色の紙に葉をスタンプして、ウィンドウの枝木に貼り、インスタレーション展示する。





ウィンドウ展示用の木を共同制作



展示前



展示中の様子





活動終了時の様子



教具の効果をシミュレートするためスタンプブースを設置

実施結果

来場者はスタンプ制作を行い、美術館を彩るインスタレーション展示できることを楽しんでいる様子であった。今後の教具制作の使用感を検討するため、今回のスタンプの一部は今後も教具として使えるようにスタンプブースを設置した。秋の紅葉に合わせて、来場者が装飾を加え続けることを目指した。

結果的に本展示は3/23まで継続した。12/1、2/1と途中で確認するたびに葉の枚数が増えている様子を確認でき、人員がいなくとも教具によって場の活用を促進できることを立証した。

木の枝でドーム型秘密基地をつくろう！

—冬はそのまま『かまくら』に—
12/1実施

内容

奥会津の環境、秋から冬への移ろいをコンセプトに、秘密基地作りを行った。材料は柳津町の奥地、山林の杉の枝を使用して、切頭八面体をベースとして制作する。

さらに木の枝で補強の材を切り出し強度を高め、杉の葉や毛糸を絡ませて秘密基地を補強しながら装飾して完成させる。

完成した秘密基地はその後積雪を加えてかまぐらの支持体となる想定で制作となる。



ワークショップ準備
里山からの枝の収集



収集した枝材（杉）



導入



制作風景



ベースとなる多面体の完成



小休止



雨天の中再開する



杉の葉による装飾



毛糸による装飾・補強



完成





2/1 秘密基地の掘り出し





かまぐらの様子



内部の様子

実施結果

当初11/30の実施予定であったが、悪天候が予想されたため12/1にスケジュールを変更しての実施となった。そのため3組4名の子どもに参加に留まったが、非常に制作意欲の高い参加者たちであった。途中雨天に見舞われた時間帯もあり、厳しい環境下での実践となったが、子どもたちの意欲に押されるように制作を進め、想定通り秘密基地を完成させることができた。

完成した秘密基地を2/1のワークショップの際に状況を確認した。今年度の記録的な積雪の中で、埋没はしていたり外形に変形は見られたが、かまぐらの支持体としてその成果を確認できた。

世界で一匹のオリジナル猫 ～版表現は無限大!～

2/1実施



ワークショップ試作

内容

斎藤清氏の猫をモチーフとした版画作品に触発され、学生がスタンプキットの教具を制作した。今回は試験的にベースとなる輪郭や細部を形作る黒インクのスタンプキットと、装飾的な赤、青のインクのスタンプキットを用意する。

教具として棚にそれぞれのキットを引き出し収まるように設計して納品する。

ワークショップでは実際にこのキットを使用して、多様な組み合わせから制作される猫の顔を表現する。



制作風景



制作風景



参加者作品





参加者作品





教具設置

世界で一匹のオリジナル猫 ～版表現は無限大!～

3/23実施



追加スタンプ例

内容

2/1に納品した教具のスタンプキットに緑と朱色のキットも追加で制作して設置する。また表情をより多様にするため、黒のスタンプの種類を増やしより多様な表現が可能となる。

また猫のスタンプキットの教具で1つの棚を制作し、さらに同型の棚をもう1つ納品する。こちらには格段に基本的な描画道具、用紙類、耕作用具を設置する。2つの棚は足を展開して広げ、天板も展開することで80×180 c mのサイズの机としての使用が可能となる。



展開した教具の机



机上にキットを展開する



追加キットにより充実した作例



制作風景



今回納品した用具類



成長した葉のスタンプ作品



終了後の様子

実施結果

2/1のワークショップに加え、3/23のワークショップにて猫をモチーフとした教具キットによるワークショップを実施した。2/1は柳津の冬まつりの開催日でもあり、美術館内が込み合う中で、教具が設置されたことにより人流を促すことができた。来場者は気軽にできるスタンプ表現を楽しんだ。

3/23には2/1の際の反省を活かし、より表現を多様にするため、スタンプを制作して実施した。前回以上に表現が多様なものとなり、1回の制作ではなく複数回制作しても楽しめる教具として納品することができた。

また以前制作した葉のスタンプ作品も展示されている葉の枚数が増えており、その効果を実感するものとなった。ワークショップ終了後このキットを使って子どもが子どもに使用を教える様子が見られ、教具によって人が交わるアートアクティビティを実現することができたと実感するものとなった。

成果・今後の展望

本事業にあたり4回のワークショップを実施し、教具を設置した。ワークショップを行った際だけでなく、教具を設置したことで日常的な場の使用頻度を高めることができた。

今年度行ったワークショップはその後作品や制作キットを常設したことで、再度訪れた際にその作品の成長や変化を確認することができるものであった。これによって参加した学生は、美術館を訪れるたびに自分たちの実践の成果を実感するものとなった。これは美術館側の協力が前提ではあるが、地域の美術館の規模でこそ可能な対応であり、だからこそ発信できる美術館の魅力を強く実感するものとなった。

本研究事業は2024年度にて終了するが、次年度以降も斎藤清美術館との連携を継続する。今後は今回納品した教具を活用することに加えて、斎藤清氏の多様な版表現との関わり、奥会津の地域環境に合わせてワークショップを考案し実践することを検討している。

地域に根差した美術館であるからこそ、今年度の参加者には繰り返し参加する参加者も見られ、継続することでより交流が深まることが想定される。定期的に参加される世帯にはキッズスタッフとしての登用を検討し、ただ参加するのではなく、実践者としての経験も学ぶことのできるより発展的なアクティビティのあり方を検討する。